2020　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071001376		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	グループホームピアおざさ		
所在地	福岡市中央区小笹１－１４－２		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果確定日	令和2年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡市南区井尻４－２－１　TEL:092-589-5680　HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和2年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】(Altキー+enterで改行出来ます)

ニーズに基づき、柔軟性と応用力のあるサービス提供に力を入れています。また市街地でありながら、広いベランダを活用して四季折々の野菜を作ったり、花を植えたりし、季節を感じていただいてます。同法人や他法人の施設と連携し、季節ごとの行事参加や外食、演芸ボランティアの呼び込みなども計画し、刺激のある生活が送れるよう努めています。（但し、本年度はコロナ禍の為、自粛しているところもあります）

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成17年4月に設立された「ピアおざさ」は、近隣にスーパーや公園などがある閑静な住宅街の一角に位置する2ユニットグループホームである。1階は放課後デイサービス、身障型の作業所があり、2、3階の各フロアに1ユニットずつ配置されている。母体法人は長崎、福岡に複数の介護福祉施設の事業を展開しており、同系列の事業所、他法人の施設と連携で餅つき、夏まつりなどを行っている。現在事業所の外壁は修理中で、ベランダの使用はできないが、広いベランダでは野菜、花を植え季節の移ろいを楽しんでいる。「一緒にゆっくり、笑って暮らそう」を事業所のスローガンに掲げている。1階道路沿いにある車の整備工場のガレージで、アーティストが集まり催し物があった。近隣商店街の会長とも交流がある。今年はコロナ禍で行事の実施も困難ではもあったが、昨年冬には「竹の会」のボランティアの訪問があり、マジック、歌などを披露してくれた。今後も地域に開かれた事業所としてますます期待される事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目:25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目:20,40）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目:40）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目:38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目:51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目:32,33）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目:30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目:9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目:2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目:4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目:11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価（希） 実践状況	自己評価（泉） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所など職員の目に付く場所に理念を掲示し、必要に応じて見直し業務にあたるようにしている。	理念をホーム内に掲示しているが日々唱和することで理念に基づいた目標が見つかると思う。日々の唱和を位置付けていきたい。	理念は事業所玄関、2、3階のフロアに掲げてあり、事業所設立時に作った。「一緒にゆっくり、笑って暮らそう」の事業所のスローガンもあり掲げてある。一年に1回、話し合い、振り返り、目標を立、見直しを行なったが、今の理念を日々唱和することで、より深く職員全体で、理念を共有し実践につなげていくことにした。	振り返りを行い、今の理念をより深く職員全員で共有し、今後も実践につなげていかれるように期待したい。
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは近所へ買物や行事参加など、交流の場を設けていたが、今年度はコロナの影響もあり、交流ができていない。	入居者様を連れて買い物に行くとお茶を出してくださったりお土産を頂いたりする。しかし今年度はコロナ禍で外出できておらず交流はなかった。	利用者と一緒に近隣のお茶屋さんに買い物に行き、お茶を頂くことがある。地域のボランティア「竹の会」が年4回訪問し、マジック、歌などを披露してくれる。近隣の保育園に利用者と一緒に、保育園児の遊戯を見に行ったり、地域の運動会にも行った。商店街の会長からの誘いで利用者と一緒にコンサートに行ったりと、事業者自体が地域の一員として日常的に交流している。今年はコロナ禍のなか思うような交流はできていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症要請サポーター養成講座を受講したりキャラバンメイト養成講座の受講も検討している。今後さらに協力していきたい。	認知症サポーター養成講座を実施し、地域の人々に認知症の理解や支援の方法を学べるように協力していきたい。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでは行っていたが、今年度はコロナにより会議ができていない。代わりに議事録を資料として作成し、関係者に送ることで意見を募るようにしている。	外部からの意見を聞いて介護支援方法も参考になっている。今年はコロナ禍で会議が中止になっているが、近況については郵送またはfaxにて送っている。	2か月に1回、近隣の小規模多機能居宅介護事業所「いこいの郷おざさ」にて行い、家族、包括職員、町内会長、いこいの郷の施設長、商店街会長、老人ホーム、ケアマネジャーなどの出席があり、事業所の取り組み状況について報告し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。今年はコロナ禍のなか会議は行なえなかった。いつもの出席者には書類を作成し送付にて意見を頂いた。	今後家族の出席を増やすために、行事の時に運営推進会議を一緒に行う事も考えてみたらどうだろうか。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜連絡を取り、分からない事を質問・相談するようにしている。	コロナ禍でも運営推進会議に代わる資料として近況報告などを郵送またはfaxにて伝えている。	運営推進会議の案内は送付している。今年は運営推進会議に代わる資料として近況報告などを送付している。最近は書類の書き方について相談した。日頃から連絡を密に取り、わからないことは相談するようにしている。昨年は社会福祉協議会が中心になり主催した「ラン伴」に参加し、施設長が司会を行うなど、取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くようにしている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回研修を行い、身体拘束はしてはいけないものとして意識してもらう。難しい事例についても話し合いを通して身体拘束をしないケアをするように取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会やユニット会議で身体拘束について定期的に話し合い、施設内の身体拘束についても解除することができた。	二か月に1回身体拘束廃止委員会を行っている。月1回のユニット会議で職員全員で話し合いを行っている。年間研修計画により、身体拘束排除のための取り組みについて、年2回内部研修を行っている。ベッド柵、センサーの使用時は家族に了解を得ている。ベッド柵の使用について、職員全員で話し合いの時間を持ち、意見を出し合い改善された。、	

自己	外部	項　目	自己評価（希） 実践状況	自己評価（泉） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、学ぶ機会を持ち、理解を深め虐待防止の徹底に努めている。また、職員同士ストレスを溜め込まないようコミュニケーションをはかり、ストレス軽減に努めている。	研修に参加した後は必ず勉強会にて話し合い、言葉遣い等にも意識知るように努めている。		
8	（6）	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者の周知、資料は常に事務室にあり、資料に目を通せるようにしている。	権利擁護、成年後見制度の研修には積極的に参加している。	成年後見制度利用者は3名、日常生活自立支援事業利用者は1名いる。管理者が外部研修に参加し内部研修にて職員全員で勉強し、理解している。パンフレットも用意し、必要な時には専門家につなげている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長又は管理者より説明を行い、ご理解、納得していただいている。	契約書は読み合わせをしながら不明点が無いように説明している。		
10	（7）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や入居者様が意見が出しやすい雰囲気づくりに努めている。電話、面会時に相談、意見を聞く機会を設けている。	玄関入り口に意見・要望を書けるように紙とポストを設置している。毎月入居者の様子を手紙にてお知らせしている。	利用者の様子は毎月「いずみ便り」「のぞみ便り」にて報告している。家族の訪問は頻繁にあり、訪問時に近況報告、意見、要望などを聞いたり、電話にて聞き取っている。玄関入り口に意見箱を用意してあるが、入っていない。	意見箱の用紙については、便りのなかに入れ、事前に家族に記入してもらい、訪問時に投函のみできるような形で、意見を得やすい取り組みにしても良いのではないか。又アンケートなどの実施も考えられてみてはどうだろうか。
11	（8）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で出た意見や提案を月1回の施設長会議で報告し、反映している。個人面談を不定期に行っている。	毎月のユニット会議でより良い業務ができるように意見交換しながら改善に努めている。	毎月のユニット会議で意見を出したり提案をしている。ユニット会議以外にもその都度意見要望がある時は、検討し対応してもらっている。ベッド柵の拘束について全員で話し合い、改善につながった。年1回個人目標を立て、施設長と面談し、自己評価により、良い業務ができるように、話し合いの時間が持てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。また外部研修などに積極的に参加できるよう支援している。	職員の勤務状況を把握し、無理が無いよう気を付けてシフト作成している。法定外福利厚生がさらに充実すると、さらなるやりがいにもつながると考える。		
13	（9）	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等で採用対象から排除していない。働いている職員の能力が発揮できる仕事を見つけ、任せるようにしている。	採用に関しては主に本人の意欲や経験を重視し、性別や年齢などを理由に対象から排除することはしない。	年令は20歳代から70歳代と幅が広く、事業所のスローガンである「笑って暮らそう」をモットーに、お互いに知恵を出し合い仕事に励んでいる。休み時間もあり休憩室で休める。研週の情報ももらい、仕事の内で行けるように配慮してくれる。主任ケアマネの勉強、救急救命の勉強などをしたいとの目標を立て、自己実現に励んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価（希） 実践状況	自己評価（泉） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会を設け、理解を深め、言葉遣いや人権尊重に対して再度見直し、日々の支援の中で注意しあえるような環境づくりに努めている。。	入居者の人権を尊重するために介護の在り方をや言葉遣いなど、ユニット会議にて勉強会を行っている。	市民福祉プラザで研修を受け、内部研修を行っている。「身体拘束ゼロ作戦」「高齢者虐待防止」「権利擁護」「プライバシー保護」などの勉強会を行っている。職員全員で、人権を尊重するために介護の在り方や言葉遣いなど、ユニット介護でも勉強会を行っている。	包括支援センター、社会福祉協議会からDVDなどを借りたり、講師派遣などを頼まれてみたらどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のキャリアアップを図るため、外部研修に参加してもらう。参加しやすいようシフト調整をする。	積極的に外部研修へ行き、学んだ知識を内部研修として発表してもらう。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のの勉強会、同業他施設へ訪問し情報交換している。支援、サービスの質の向上につなげるように努めている。本年度は電話にて主に情報交換している。	運営推進会議の出席、地域の行事には例年参加していたが、今年はコロナ禍の為ほぼ中止している。電話等でやり取りをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、本人と面談を行いそれぞれの要望、不安なことを聞き取り、最初は生活に慣れて安心して過ごしていただけるよう配慮し、信頼関係を築けるよう努めている	まずは話を傾聴し、本人の率直な意見が聞けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、困っている事、今までの生活歴、要望などを詳しく聞き、その上で施設側の意向を説明し、理解していただく。不安が無いよう情報交換しながら信頼関係を築けるよう努めている。	家族の方が気を許してもらえるような態度で話を聞いたり、必要に応じて困りごとが無いかこちらから伺うようにして関係構築に努めてる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	数か月は施設での生活に慣れていただき、本人の様子を見ながら本人、家族の希望を聞き取り、必要なサービスを取り入れている。	本人と家族のニーズがあった時、地域の保育園や地域住民との関りが持てるような対応をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々コミュニケーションを図りながら本人の気持ちをできるだけ多く聞き取り尊厳を大切にしている。学ばせていただくことも多くより良い時間が過ごせるよう関係を深めている。	本人と家族の絆を大切にしながら専門的援助者として家族と共に支援していくよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会ができないときは、電話で話してもらったり、最近の様子をお伝えしたり窓越しの面会をしていただいたりと、安心して交流できるよう支援している。	本人と家族の絆を大切にしながら専門的援助者として家族と共に支援していくよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価（希） 実践状況	自己評価（泉） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月本人様のご様子をお便りで伝えたり、必要時は電話でお話ししていただくなどしている。	今の状況では直接会うことは難しいが、電話や窓越しでの面会ができることを伝え、かかわりあえるように支援している。	昔、教えていた日本楽器教室の生徒さん、友人、などの訪問がある。行きつけの美容院に行ったり、事業所に美容師さんが見えたこともある。家族と一緒にお寿司屋さんに行かれる利用者もいる。絵画の好きな方は今も絵を書いている。日本楽器の先生だった方は、県立の複合施設で演奏を披露した。今年は、コロナ禍の中、外出、面会も難しいが、電話などで家族と話をしてもらったり、職員は毎月のお便りで緊急報告を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの時間や家事手伝いの時に声掛けを行い、一緒に作業ができるよう努めている。	他者とうまくかかわりあえるよう職員が間に入り、レクリエーションを行うようにしたり、会話でも孤立しないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご相談があれば誠意をもって対応し、信頼の継続に努めている。	サービス終了後もご家族から連絡があれば対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で自然と希望や意向を話せる関係づくりに努めている。	日々過ごしている会話の中から本人の気持ちを聞き取り、どうしたいのかをくみ取り把握する。また行動を常に気にかけ、情報を見逃さないようにしている。	入居時には病院、施設などに施設長、管理者、ケアマネジャーが訪問する。利用者、家族の思いや、暮らし方の希望を聞き取り、意向の把握に努めている。意向の把握の難しい方には、本人の表情を見たり、何気ない会話からくみ取る。入居し、生活をして行くなかでわかってくることがあり、日々の申し送り、記録などから、情報を見逃さないように、職員全員で共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者と話す時間を作り、昔の話や家族のことを聞き出し、サービスに役立てるよう努めている。	本人から昔の話を聞いたり、入居前からの生活歴や介護サービスの利用状況にも目を通し把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録を元に一人ひとりの生活リズムを把握している。いつもと違うことがあれば、職員同士共有する。	日々の中で一人ひとりのことを注意深く観察し、気付いたことは申し送りや記録に残し、情報を共有できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にユニット会議を行い、問題があれば全員で共有し、解決策を考える。また必要に応じてご家族にも協力していただき、介護計画を作成している。	月に1回ケアカンファを行い、意見を出し合い本人の現状に合うような事柄を追加し、見直しをしている。	日々の実施記録から課題、問題点を見つけ出し、変化を見逃さないようにする。目標の達成状況、利用者、利用者家族の意向、満足度などの評価、改善のために、モニタリングを行う。職員は利用者を1～2名受け持ち、月1回のケアカンファレンスで職員全員で意見を出し合う。担当者会議では利用者、家族の意向を聞き取り、医師、看護師などから情報をもらう。実施記録とプランは紐づけられており、現状に即した介護計画を立てている	

自己	外部	項　目	自己評価（希）	自己評価（泉）	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそって記録を行っている。その日出勤のスタッフが記録を見直すことで介護計画に沿ってのサービスを見直している。見直しの際は日々の記録、スタッフの意見を出し合っている。	ケア記録にケアプランの内容の実施について時間ごとに記入するように用紙を変更することで、わかりやすく実施状況を把握できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の重度化に伴い多機能なサービスに限界がある中、本人のペースに合わせたサービスや日々の生活の中で活気ある日常が送れるよう努めている。	ご家族の協力が得られる場合はお願いし、難しい場合は各担当職員やケアマネが支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な時はボランティアを呼んだり訪問マッサージなどを利用している。また、地域の行事にも参加できるよう努めている。	コロナ禍以前は近所のスーパーや商店街のお茶屋さんへ買い出しに出かけ、散歩を楽しんでいた。		
32	（14）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に往診可能な病院を説明し、ご家族に了解を得ている。入居前の病院などから情報提供書などをもらい、不備なく引継ぎしている。また眼科や心療内科など専門医については家族同伴のもと送り出しを支援し受診している。往診時は薬等変更がある時はご家族へ報告する。	ご入居以前よりかかりつけ医があった場合に引き継いで往診できるか調整を行い、実現したケースもあった。	入居以前よりかかりつけ医を利用している方もいる。提携医は5件あり24時間対応できる。他科受診時は家族と一緒に行ったり、事業所で対応している。受診時の様子を家族から聞き取り、医療申し送りノートに記入し、職員全員で共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日々の様子はスタッフ全員から情報をもらいまとめたうえで、かかりつけ医へ報告している。急変時はすぐにかかりつけ医にへ報告し指示をもらっている。	かかりつけ医の看護師等に、往診時や利用者の特変時に情報をお伝えし、相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院まで付き添ったり、面会に行くなどして、本人の様子を観察、医療機関から説明をもらっている。退院時は退院時カンファレンスに参加し、注意すべき点等指示、指導をもらっている。	入院が必要となった場合には、施設でもその状況を伝達する。加えてかかりつけ医を入院先との情報共有もできるようにお願いしている。		
35	（15）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めにかかりつけ医よりご家族へ今後について直接説明してもらっている。施設からも立会いできることを説明し、双方合意の下終末期に備える。随時家族への報告を行い情報共有できるように努めている。	以前、見取りまで行った利用者がいらっしゃった。ご家族が希望される形で終末期を過ごせるように支援できるよう、今後も取り組みたい。	重度化した時は事業所として指針はある。昨年は3名看取りを行った。看取りの時期が来た時には家族、医師、施設長、管理者、職員と話し合いを行い、看取りのプランを作成し、チーム全員で支援に取り組む。緊急連絡網もある。看取りの研修は行っている。	本人、家族の思いにそい、終末期を過ごせるよう、職員全員で取り組みたいとの事、今後も折を見て看取りの研修を行ってみてはどうだろうか。

自己	外部	項　目	自己評価（希） 実践状況	自己評価（泉） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	それぞれ救急救命講習を受講している。また急変時の対応についても年間研修計画に盛り込み、最低でも年1回は研修を行っている。	コロナ禍で例年通りには行かないが、救急救命講習に参加し、応急手当等学んでいる。		
37	（16）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。内1階は夜間想定で実施、可能な限り隣接する施設や民生委員の方にも協力を得て連絡訓練をしている。	避難訓練は年2回行い、問題点があれば職員が認識できるようにしており、近隣の事業所や地域の方々にも可能な時は協力を仰いで協力をお願いしている。	年2回避難訓練を行い、一回は夜間想定で行なった。以前、消防署職員の立ち会いもあった。近隣の施設職員、民生委員、商店街の会長などの協力がある。緊急時の電話連絡の仕方などの訓練を行った。避難場所は近隣の小学校であり、今後、施設長が近隣の避難訓練に参加する予定である。非常時の備蓄としては、水、パンなどを3日間用意してある。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	（17）	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに応じて親しみやすい声掛けをしたり、どのような対応が良いか日々模索するようにしている。	個々の性格を把握し、言葉遣いには特に注意している。	一人ひとりの尊厳、プライバシー保護など研修を行い、言葉遣いには特に注意をしている。声かけや対応に工夫し自己決定できるように、促している。どのような対応が良いのか、どうしてそのようにしているのか、日常の会話から思いを汲み取っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや対応に工夫自己決定できるよう促している。	日常の会話から要望などを理解し、自己決定できるような対応を考えている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本決まっているが、その時の利用者の体調などに合わせて、無理のないように対応している。	基本のスケジュールは立てているが臨機応変に対応し希望に添えるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みに合わせているが、季節感など乱れている場合は声掛けしながら直している。	清潔感があり季節に合った服装を選んでいただけるよう必要時は支援している。		
42	（18）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや刻んだり、ムース食を利用することで利用者ごとにあった食事を提供している。準備や配膳は現在難しいが、片付けのお盆拭きなどを協力してもらっている。	一緒に料理することは難しくなったが、おやつ作りや食器拭きなどできることを探し、手伝っていただいている。	食事は業者から取り寄せ湯煎し、炊飯は事業所で行ない、炊き立てのご飯を楽しめる。お誕生日にはお寿司、ケーキにデコレーションをして、みんなでお誕生日をお祝いする。おやつのクレープ、たこ焼きなどを利用者と一緒に作る。食事のメニューは職員が発表し、楽しい食事ができるようにしている。利用者には、食器拭き、お盆拭き、テーブル拭きなどを手伝ってもらう。	

自己	外部	項　目	自己評価（希） 実践状況	自己評価（泉） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できる限り詳細に記録し、スタッフ間で情報共有しながら改善点があれば随時調整している。	チェック表を作り、毎食どのくらい食べたか確認している。また食事形態も個人の能力に合わせて変更している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯利用者様は義歯の手入れと口腔内の手入れをしっかりと行い、自力でできる方は意思を尊重しつつ、食物残差等が無いかチェックしている。	日々の口腔ケアの他、週1回の訪問歯科による口腔ケア実施、義歯も夕食後に洗浄剤につけるなどして対応している。		
45	（19）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。適宜ポータブルトイレも使用している。	その方の排泄パターンに合わせて声掛けし対応している。自立できる方には見守りを行っている。	排泄パターンを把握し、声かけ、誘導することで、夜はおむつだったかたが、ポータブルトイレでできるようになった。退院後、おむつだった方が、リハビリパンツに改善された。利用者の様子を見て、声かけトイレに誘導し、トイレで排尿ができ「ありがとう」と言われた。一人ひとりの力や排泄のパターンを活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	積極的に乳製品や果物を試してみることで、便秘の予防に努めている。個別で運動にも取り組んでいる。	排泄チェック表にて排便有無の確認を行っている。医師の指示に従い服薬対応も行っている。		
47	（20）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調に気を付けてその日入浴するか決めている。希望に合わせて中止することもある。入浴中は歌を唄ったりして楽しい時間になるよう努めている。	週2～3回の入浴日に体調変化がない限り入浴していただいている。	週3回午後から入浴を行っている。利用者のその日の体調に気を配り、その日に入浴するかどうか決めている。好みの入浴剤を入れる。皮膚に異常が見られた時は医師に伝え、日報に書き申し送り、職員は必ず日報に目を通し情報を共有する。入浴の時間は貴重なコミュニケーションの場として大事にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日のスケジュールにおいて休息、安眠できるように職員間で必要な時間を決めて休んでいただくようにしている。	夜間の睡眠の他、日中の短時間睡眠も大事にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「お薬リスト」を確認し、現在の服薬状況を常に確認するようにしている。必要に応じて文献を確認して知識を高めるようにしている。	服薬介助を行い、誤薬事故が無いよう努めている。日時名前を確実に行い服薬を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションをはじめ、体操、歌などを提供する。他にも塗り絵や誕生日会、家事手伝いなどを提供している。	その方の出来る事を声掛けし実行してもらっている。気分転換に歌やゲームなども行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価（希） 実践状況	自己評価（泉） 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望があった時はご家族と話し合って協力を得て、外出支援している。外食や紅葉見学も行っていたが、本年度は積極的に行っていない。	今年はコロナ禍もあり外出を控えている。少しの散歩程度は本人の希望時に実行している。（敷地内など）	近隣のコーヒーショップに行ったり、商店街に行くこともある。新年会では家族を招待し、鍋パーティーを行った。豆まき、ひな祭り、夏には花火、そうめん流しなど季節に合った行事を行っている。福岡タワー，油山の紅葉見学には車3台で行った。敬老会、クリスマス会は2階と3階合同で行っている。今年はコロナ禍で思うように外出は出来なかったが、今後も利用者、家族みんなが楽しめる行事の計画を、立てようと思っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様はお金の所持はしていない。希望される場合はご家族に相談の上、購入している。可能な場合は支払い時に見守りのもとお金の受け渡しを行ってもらう。	お金の所持は基本していない。ゲームにて専用通貨を用いて疑似的にお金の使用を体験してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がご家族に電話して、途中ご本人に代わり、話していただく。手紙も職員がご家族あてに送りしたり、家族から届いたものは利用者に渡している。	家族やご友人などの電話は取次している。施設頼りとして写真付きで毎月ご様子を郵送にてお伝えしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が移動される時に危なくないように整理整頓には気を付けている。フロア内には季節感を出す飾りつけをして変化を付けるようにしている。	居室に名前やトイレの表示板、その月ごとのカレンダー作成、絵を貼ることで工夫している。	居室内は室温、喚起に注意をしている。食事の間は柔らかい音楽を聴きながら、食事を楽しんでいる。現在ベランダは工事をしており、花、野菜の収穫もできないが、春には又楽しめる事と思われる。天井は4か所の明り取りがあり、室内は明るい光に満ち溢れている。壁には利用者の書かれた習字などが、飾られている。廊下には楽しい絵とともに川柳が貼ってある。食後はレクリエーションで、利用者と職員が一緒に、懐かしい歌を楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれの好みに合わせて、居室で過ごしてもらったり、ソファで休んでもらったり、一緒にパズルや家事手伝いをしてもらうようにしている。	一人用、数人掛け用ソファを用意し、気分に合わせて過ごせるよう工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して必要なものはできるだけそろえていただき、思い入れのある品物を置くことでできるだけ自分の部屋だと思えるような環境づくりを目指している。	テレビやぬいぐるみなど使い慣れた家具等を持ち込んでいただき、以前の生活環境に近いものにしている。	居室にはベッド、カーテン、エアコンなどが取り付けてある。仏壇を持参されてる利用者もいる。絵の好きな方は室内をアトリエのようにレイアウトしており、素敵な絵が部屋に飾られている。家族の写真を飾ったり、本人の馴染みの家具なども持参している。一人ひとり、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや指示板などを使用して、自分で出来る事はやっていただけるような環境づくりを目指している。	椅子や居室にネームプレートを貼り、本人が判断できるようにしている。共用部では案内表示を設置し、なるべく自立した生活が送れるようにしている。		